

ゲーム依存症対策関係者連絡会議議事概要

日時：令和2年2月6日（木）

10:30～12:15

場所：航空会館501・502会議室

- ・ 国立病院機構久里浜医療センターの樋口氏より、資料2に基づき、ゲーム障害の実態、診断、症状、治療、予防等に関して説明がなされた。
- ・ 厚生労働省・内閣府・消費者庁・文部科学省・経済産業省、ゲーム関連業界団体より、資料3に基づき、これまでの取組及び今後の取組について説明がなされた。
- ・ 日本小児科医会の内海氏より、以下の意見が出された。
 - ・ 現場感覚としても、使用する時期を遅らせることが予防として重要と考える。
 - ・ 子どもはなかなか約束を守れない中で、小児、特に乳幼児に対するコントロール方法について具体的な方法を提案すべき。
 - ・ 依存症（精神疾患）としてだけでなく、視力や筋力などの健康問題としても幅広く考える必要がある。
- ・ ASKの今成氏より、以下の意見が出された。
 - ・ 年齢が低いという点が、他の依存症の問題とは異なる点である。
 - ・ 思春期での問題であり、親のコントロールが難しい面がある。
 - ・ 予防に当たっては産業側の努力が必要であり、様々な問題について産業側と話し合うことが大事である。
- ・ 日本医師会の江澤氏より、以下の意見が出された。
 - ・ ゲーム依存症は新しい概念であり、国民一般や医療従事者等への情報提供が必要である。
 - ・ 親が気をつけること、親に気づきを与えることが予防につながるのではないか。例えば、医療機関に関連するパンフレットを置いておくこと等も考えられる。
 - ・ 子ども世代には、攻撃的なゲームでなく、心が豊かになるようなゲームも普及してもいいのではないか。

- ・屋外で交流したり、スポーツをする時間を確保することも、ゲームの時間を減らすことや豊かな生活を送るといった視点で有効ではないか。
- ・日本精神科病院協会の堀井氏より、以下の意見が出された。
 - ・ゲーム依存症は新しい概念であり、世界的にも遅れている問題である。医療、教育、業界など関係省庁、関係機関全体でゲーム依存症について考える必要がある。
- ・日本精神神経科診療所協会の海老澤氏より、以下の意見が出された。
 - ・ゲームによっては、休職している方が外出するきっかけになるものがある一方、課金の問題もある。子どもだけでなく大人に対しても適正な使い方を啓発することが重要である。
- ・全国精神保健福祉センター長会の白川氏より、精神保健福祉センターでのゲーム依存症に関する相談が年々増えている、との意見があった。今後も相談機関として対応していきたいとの意見があった。
- ・日本オンラインゲーム協会の越智氏より、以下の意見が出された。
 - ・ゲーム依存症に関して、オンラインゲームの本格的普及等に伴いここ数年で起きている事象であること、予防にあたってはリアルな生活の充実が重要であること、について、樋口氏の治療経験に基づく認識と一致している。
 - ・業界においても、オフラインのリアルイベント、リアルなコミュニケーションを充実させる点も重要視している。
 - ・業界としても様々なご意見を踏まえて、予防・啓発に取り組んでいく。また、ペアレンタルコントロール機能の例について動画で紹介がなされた <https://www.youtube.com/watch?v=AVS9Dqgpo3g>